西村証券 企業調査速報

2024/02/16

[金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号：加入協会…日本証券業協会]

ジーエス・ユアサ コーポレーション（コード 6674）

◆各決算期の第 3 四半期業績推移(連結)（第 3 四半期の CF の発表無し）

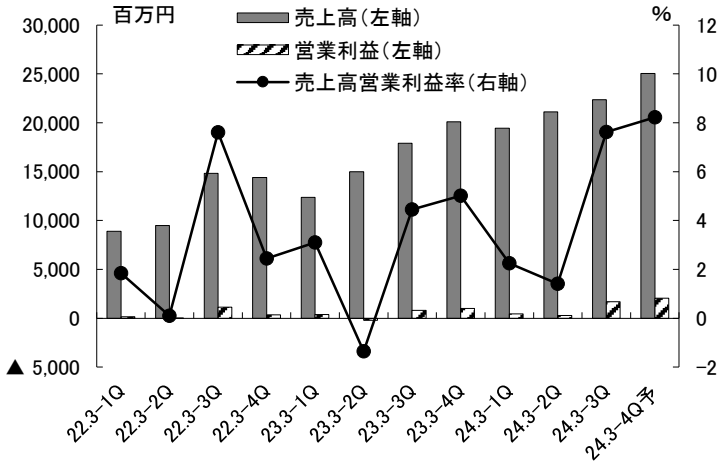
決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.3	278,016	14,383	70.2	―	―	―	―	―
22.3	313,146	13,902	41.6	―	―	―	―	―
23.3	374,880	18,994	97.6	―	―	―	―	―
24.3	411,591	29,379	215.8	―	―	―	―	―

◆通期業績推移(連結)（24.3 予は会社側発表値）

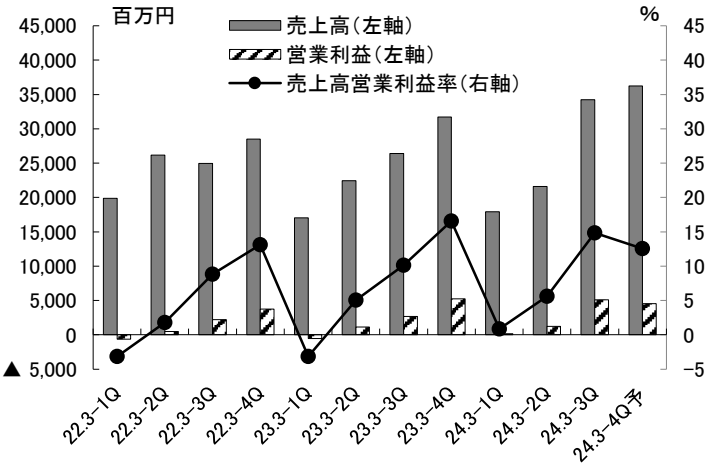
決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.3	386,511	24,810	141.9	50.0	35,817	▲19,327	▲7,018	35,807
22.3	432,133	22,664	105.2	50.0	12,879	▲30,204	5,203	25,845
23.3	517,735	31,500	173.1	50.0	28,330	▲26,567	8,826	36,027
24.3予	560,000	42,000	242.2	60.0	―	―	―	―

（CF＝ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円）

四半期(Q)ごとの車載用リチウムイオン電池の業績推移



四半期(Q)ごとの産業電池電源の業績推移



24 年 3 月期の第 3 四半期業績概況…24 年 3 月期第 3 四半期累計期間（23 年 4～12 月）の業績は、主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量が増加したことや販売価格是正の取り組みの進展などにより、前年同期比で売上高は約 10%、営業利益は約 55%増えた。

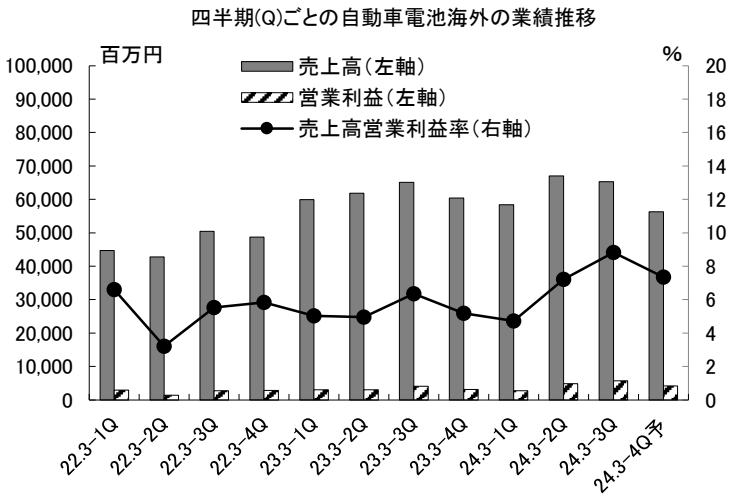
当期の売上高は 4,115 億 9,100 万円（前年同期比 9.8%増）、営業利益は 293 億 7,900 万円（同 54.7%増）、経常利益は 289 億 5,800 万円（同 80.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益（以下、四半期純利益）は 177 億 4,100 万円（同 126.0%増）で、過去最高の業績に。持分法による投資損益や為替差損益の改善などで、経常利益、四半期純利益の伸び率が営業利益よりも大きくなった。

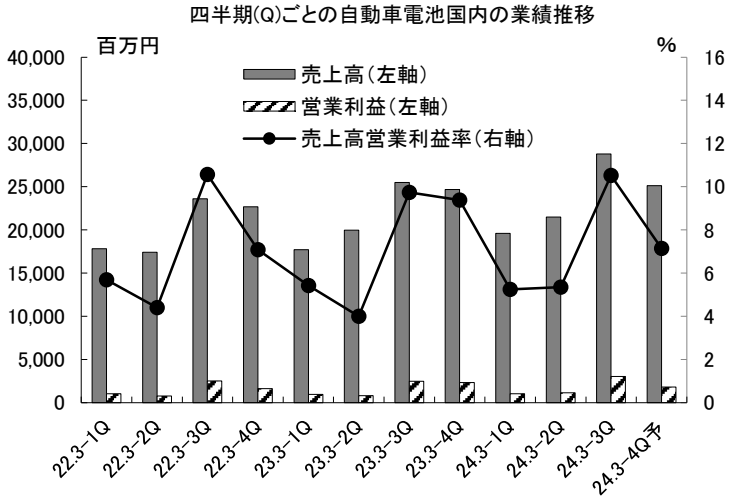
業績の伸びの要因として、まずあげられるのが車載用リチウムイオン電池セグメントで、半導体不足解消に伴う新車メーカーの生産回復、子会社ブルーエナジーの生産体制強化によってハイブリッド車用の販売数量が増加。売上高 629 億 4,300 万円（同 39.1%増）、営業利益 24 億 3,900 万円（同 149.5%増）と大幅な増収増益になった。四半期（3 ヵ月）ごとの数値を見ても売上高は増加トレンドをたどり、営業利益の額及び対売上高比率も大きく改善している。

産業電池電源セグメントについても、常用（国内）分野の電力貯蔵システム（ESS）向けリチウムイオン電池はフル生産となるなど販売が好調で、非常用（国内）分野のバックアップ用電池

電源装置や国内外向けのフォークリフト用についても売価見直しなどにより堅調に推移。売上高737億4,900万円（同11.9%増）、営業利益64億4,700万円（同96.5%増）と、こちらも大幅な増収増益となり、四半期ごとでは凹凸があるものの業績は増加トレンドとなっている。

国内外の自動車電池セグメントについても堅調に推移している。自動車電池（海外）では、欧州・豪州向けで堅調な販売や売価見直しによって売上が増加した一方、東南アジア向けで自動車用、オートバイ用とも販売数量減になったほか、中国での事業見直しなどにより、売上高は1,906億6,900万円（同2.0%増）とわずかな伸びとなったが、売価見直しが進んだことなどから営業利益は133億5,700万円（同30.7%増）と大幅な増益に。四半期ごとでも今期の第1四半期（23年4～6月）を底に上昇傾向に転じている。自動車電池（国内）については、新車用では、半導体不足解消による新車メーカーの生産回復に伴って販売数量が増加。補修用では、新車向け需要回復によって販売数量減となったものの、売価見直しなどによって増収に。売上高は688億7,100万円（同9.1%増）、営業利益（のれん等償却前）は52億600万円（同22.9%増）と増収増益になった。





24年3月期の業績見通し…24年3月期の通期業績については、売上高5,600億円（前期比8.2%増）、営業利益420億円（同33.3%増）、経常利益380億円（同56.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）210億円（同50.8%増）の見通しで、前回（23年11月7日付け）の会社側発表値から営業利益（修正前370億円）、経常利益（同320億円）、当期純利益（同160億円）が増額修正されている。

セグメント別の予想値について、売上高は全セグメントで前回発表値から据え置かれ、国内自動車電池950億円（前期比8.2%増）、海外自動車電池2,470億円（同0.1%減）、産業電池電源1,100億円（同12.7%増）、車載用リチウムイオン電池880億円（同34.6%増）など。営業利益予想では、国内自動車電池70億円（同6.9%増。修正無し）、海外自動車電池175億円（同31.1%増。修正前160億円）、産業電池電源110億円（同28.7%増。修正前95億円）、車載用リチウムイオン電池45億円（同126.6%増。修正前40億円）などとなっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。